

演習科目	想定される事例（等）
社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患や障害のある家族と同居をしており、利用者支援が困難であった事例</li> <li>・多問題が複雑に絡み合っている利用者の対応に苦慮した事例</li> <li>・生活困窮があり対応に苦慮している事例</li> <li>・利用者がサービスを拒否している事例</li> <li>・虐待対応事例</li> </ul>
リハビリテーション及び福祉用具活用の活用に関する事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢であることを理由に、生活自立への意欲に欠ける利用者に対し、適切な生活目標の共有やサービスの提供に苦慮した（している）事例</li> <li>・施設生活が長期にわたる要介護者に対しての自立支援・重度化予防について苦慮した事例</li> <li>・自立支援のため福祉用具導入や住宅改修を行ったが、上手く活用できなかった事例</li> </ul>
家族への支援の視点が必要な事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活（自立支援やその権利）と、介護者家族の生活を両立させるのに苦慮した（している）事例</li> <li>・利用者と家族の意向が異なり、介護支援専門員やサービス事業所が対応に苦慮した（している）事例</li> <li>・家族（養護者）による虐待発生する可能性を含んでいると思われる事例</li> <li>・利用者の支援を行うにあたり、家族に対しても支援が求められる事例</li> </ul>
看取り等における看護サービスの活用に関する事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護、訪問診療など、医療系サービスの導入にあたり苦慮した（している）事例</li> <li>・在宅で過ごしたいという利用者の意向と、不安のために入院の希望が強い家族の意向との違いがあったが、訪問看護サービスの利用により調整ができた事例</li> <li>・施設における看取りにおいて、看護職員と介護職員の連携により、職員の負担感や不安が解決できた事例</li> <li>・単身生活、老老介護、家族が就労しながら介護している等、介護力が少ない中で、看護サービスの利用により在宅での看取りが可能になった事例</li> </ul>
入退院時等における医療との連携に関する事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時に、病院職員に利用者の意向や介護状況等を情報提供したことで、入院時から退院にむけてケアできた事例</li> <li>・入院をきっかけに、意欲やADLが低下したが、病院職員との連携により、退院後も効果的なリハビリテーションが継続できて回復した事例</li> <li>・医療依存度が高い状態で、入院中からの連携により、利用者、家族の不安が少なく在宅生活を開始できた事例</li> </ul>
認知症に関する事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発症初期からの対応や治療課程の対応について苦慮した（している）事例</li> <li>・状態や希望に応じた利用者の能力や可能性の活用について苦慮した（している）事例</li> </ul>
状態に応じた多様なサービス（地域密着サービス、施設サービス等）の活用に関する事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅で生活を継続するために、地域密着サービスを利用し、介護を行った事例</li> <li>・冬期間に施設を利用し、一人暮らしを目指した事例</li> <li>・退院後、一時的に入所し、機能訓練を行い自宅での生活を目指した事例</li> </ul>